

緑の担い手

共感できる 山づくり

笠間西茨城森林組合

業務課長補佐 櫻井 哲郎



私が大子一高（現大子清流高校）

森林科学科を卒業後、笠間西茨城森林組合に就職してから十七年が過ぎました。子供の頃から自然に囲まれた中で育ち、父親も同職だったのもあり林業の道に進むことに抵抗はありませんでした。就職当時は現場管理や造林地の調査などを主にやっていました。正直、物足りなさを感じていましたが次第に現場の方もこなすようになってくると一つ一つの作業の奥深さを実感し自分の中で技術を高めてみたいという気持ちになりました。チェーンソーの目立てから始まり保育間伐・下刈作業などを行いながら徐々に重機を使った支障木伐採などにも取り組み、成果が見て

分かるようになってくると仕事も楽しくなってきました。その一方で丸太価格の低迷から山離れしていく人も増え手入れされず荒廃していく森林が多くなり組合経営も厳しくなってきました。赤字経営も何年か続き先が暗い時もありましたが、直営で作業したことで現場の基礎から学び一人一人の技術・経験・知識も豊富になりました。その後、森林湖沼環境税を活用した間伐事業がはじまり管内でも多くの森林を整備できました。今は、若い職員も増え元気あふれる職場となり直営班で搬出間伐を中心に取り組んでいます。その中で私は、作業道開設を行っています。路網の線形や作業性を考えたり土質、地形によって施工方法を変えたり、軟弱地には構造物を設置したりと面白みのある仕事だと思っています。林業の作業システムも入社当時から比べてみると機械化が進み高性能林業機械は必要不可欠なものになりました。当組合もハーベスタを導入し基盤整備をすることで事業拡大に力を入れていきたいと思っています。

私も林業技士や作業道オペレーター指導者研修など参加させていただき、昨年は十月下旬から東京・山梨で二週間フォレストマネージャー研修を受講しました。統括現場管理責任者ということで安全管理・職場環境・現場のコスト管理など多くの講師、会社の方々の話を聞き、林業経営を行ううえで川上と川下の関係や仲間・地域からの信頼を得られるよう取り組んでいきたいと思っています。